

協働学習支援ツールを用いて、進捗状況をリアルタイムに確認し、必要に応じて適切な指導を実施

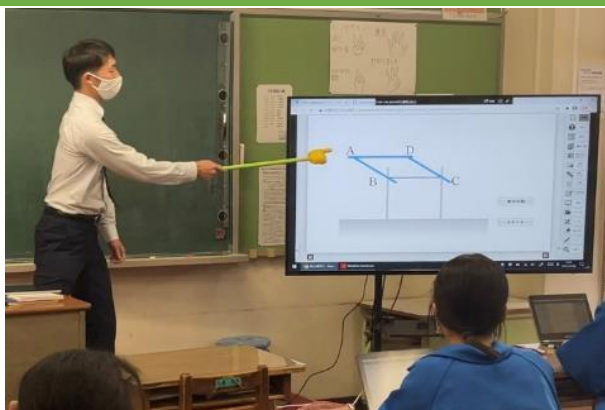
第2学年

平行と合同(平行四辺形であるための性質の証明)

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- ICT 端末上で試行錯誤しながら、粘り強く自分の考えを整理する生徒の姿がありました。
- ICT 端末を用いて仲間と交流することで、画面上に書き込みながら対話する生徒の姿がありました。

シミュレーションの活用による効果



事象を動的に提示し、具体的な事象の中に潜む図形の性質に気付かせる。

- ・教師用デジタル教科書のシミュレーションを用いて、遊園地の乗り物の動きを抽象的な図形に置き換えて提示することで、どのような条件の範囲内で変化させているかを整理し、変化させても変化しない性質は何かに気づきやすくする。
- ・条件を整理する中で、本時証明したいことの仮定と結論を明確にする。

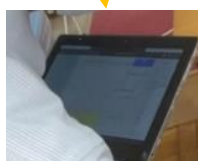
教師の指導のポイント

- シミュレーションを繰り返し提示することを通して、辺 BC を固定して動かしていることや四角形 ABCD の全ての辺の長さを維持したまま動かしていることを丁寧に確認し、仮定と結論を明確にする。見通しをもって、個人追究に向かえることを意識して活用する。

協働学習支援ツールによる効果



進捗状況把握



教師用 ICT 端末で生徒一人一人の進捗状況を把握し、個に応じた適切な指導を行う。

- ・ICT 端末で生徒のノートをリアルタイムに確認し、適切な補助線が引くことができない生徒や仮定と結論を混同して証明が進まない生徒など、困り感を抱える生徒の学習状況をできるだけ早い段階で気付けるようにする。



相互評価

仲間同士で交流し、適切な表現を用いて証明できているかを確認し合う。

- ・交流の際には、ICT 端末を提示することで、拡大縮小したり、必要に応じて線や言葉を書き加えたりして、相手意識のある交流ができるように配慮する。

教師の指導のポイント

- 教師用 ICT 端末で進捗状況を把握する際に、時間内でより適切な支援を実施できるように、事前につまずきの具体とその際の支援を想定しておく。
- 仲間との交流は視点を明確にした上で行き、相互評価ができるようにしておく。